

科目名	心と行動 I	科目分類	□専門科目群 ■総合科目群		
			全学科	□必修 ■選択	
英文表記	Mind and Behavior I	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年		
		開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中		
ふりがな	たきざわ じゅん	実務家教員担当科目	修得単位	2単位	
担当者名	瀧澤 純	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用		
授業のテーマ	心理学の中でも基礎的な部分を学ぶ。				
到達目標	心理学の基礎的な用語や理論についての知識を身につける。身につけた知識を用いて、自分や他者の心を理解し、説明できるようになる。				
授業概要	心理学の講義を行う。心理学とオカルトとの違い、人による違いなどを取り上げる。また、情報を受け取る、覚える、学ぶといった行動についても取り上げる。授業の中で、ペアでの意見の共有、グループワーク、心理学の実験や調査の体験を行う。				
授業計画					
第1回	心理学とは：心理ゲームや心理占いとの違い、心理学の種類				
第2回	災害に関する心理学：地震における避難行動、避難の基準、噂の伝達				
第3回	情報を受け取る①：五感、知覚と認知の違い、錯覚、網膜上にある盲点				
第4回	情報を受け取る②：主観的輪郭、多義図形、現代人と味覚、相貌失認				
第5回	情報を受け取る③：知覚の法則、加齢による影響、スポーツ経験による影響、時間知覚				
第6回	覚える① 記憶の奥義：記録、保持、想起、記憶術、記憶におけるプライミング効果				
第7回	覚える② もの忘れ：感覚記憶、短期記憶、長期記憶、作業記憶、チャンク、忘却曲線				
第8回	覚える③ 犯罪を目撃したときの記憶：手続き的記憶と宣言的記憶、虚記憶、事後情報効果				
第9回	学ぶ①：学習の定義、技能の学習、観察学習				
第10回	学ぶ②：道具的条件付け、シェイピング、古典的条件付け、行動療法				
第11回	学ぶ③：やる気、欲求、感覚遮断実験、欲求不満（フラストレーション）、葛藤				
第12回	人による違いをとらえる① 知能：知能指数（IQ）、問題解決能力、人工知能				
第13回	人による違いをとらえる② 性格：性格、人格、気質、パーソナリティ、血液型と性格				
第14回	人による違いをとらえる③ 健康：人づきあいと寿命、脳トレ、気分の落ち込みと栄養				
第15回	人による違いをとらえる④ 心の病：精神障害の種類、アセスメント、リフレーミング				
第16回	定期試験				
授業時間外の学習	授業計画に書かれた用語について予習し（1.5時間程度）、毎回の復習を行うこと（1.5時間程度）。メディアで見聞きした心理学の情報、自身が感じた心理学の疑問についてメモすること（0.5時間程度）。				
履修条件 受講のルール	空欄がある資料を授業中に配布する。空欄を埋めた状態の資料すべてが、定期試験の範囲となる。				
テキスト	使用しない。				
参考文献・資料	山崎浩一・村上香奈（編著）『子どもを支援する教育の心理学』（ミネルヴァ書房、2021年発売予定） 重野 純（編）『キーワードコレクション心理学 改訂版』（新曜社、2012年） 無藤 隆ほか『心理学 新版（New Liberal Arts Selection）』（有斐閣、2018年）				
成績評価の方法	平常点（授業態度、提出用プリント）を40%、定期試験を60%として評価する。「提出用プリント」は、科目担当教員が内容の充実度を判断し、成績に加味する。定期試験は持ち込み不可とする。出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。				
オフィスアワー	月曜日の3時限（13:00から14:30）、金曜日の2時限（10:40から12:10）とする。				
成績評価基準	秀(100～90点)、優(89～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)とする。				
実務経験及び実務を活かした授業内容					

学生への メッセージ	この授業は、人間に関する学問すべての基本となります。この授業をふまえて、心理学検定（2級、1級、特1級）に挑戦してみてください。
---------------	--